
学校保健分科会

I 研究のあゆみ

4月19日(水)	2023年度名教組教研オリエンテーション (2023年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(火)	発表テーマ報告・集約	
5月12日(金)	研究計画の検討 (研究のねらいおよび第1次実践の検討)	【教育館】
6月5日(月)	研究内容の検討 (第2次実践の検討と研究のまとめ方)	【教育館】
6月~8月	個別にリポート検討	
9月8日(金)	市集会発表に向けての検討 (発表プレゼンテーションの確認および発表手順の確認)	【教育館】
9月16日(土)	第73回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

- 生活習慣について(5本) ○ けが・安全について(4本) ○ 口腔の健康について(3本)
- 性について(1本) ○ 委員会活動について(1本) ○ 姿勢について(1本)

実践報告では学習タブレットを活用したものが多く報告された。歯磨きの際記録をしながら鏡のように使用させたり、意見交流の場として利用させたり、自分が発見した健康課題を撮影して共有させたりなど、その利用方法は多岐にわたった。このことから、学習タブレットが保健教育の中で効果的に利用されていることが伺えた。またどの実践も学習サイクルがうまく取り入れられており、その結果、子どもたちが自分の健康に関心を持ち、より健康に生きていくために大切なことを自分事として考えることができたと思われる。子どもたちが生涯に渡り健康に過ごしてほしいと願う、実践者の真剣な思いが伝わる実践報告ばかりであった。

III 今後に残された課題

- 参加した保護者から、生活習慣に関する保護者から子どもへの声掛けは「注意」のように捉えられてしまうため、どう声掛けするとよいか悩むという意見や、実践からある程度時間が経過すると子どもたちの意欲は少しずつ薄れるためどのように意欲を保ったらよいかという質問が上がった。学校保健で行う実践の多くは保護者の協力を得ることで、子どもたちが身に付けたことを生活場面でより意欲的に生かすことができると考える。そのために、学校で行った取組を保健だより等で知らせることで家庭でも話題にできるようにしたり、学習で使用したカードを学習タブレットから自由にダウンロードして家庭でも活用できるようにしたりするを通して、子どもたちが実践後も生活をより良くしようとする意欲を継続できるよう工夫していくことが大切であると考え。家庭をはじめとする子どもを取り巻く様々な人々と学校が協力して幅広く子どもを見守り、働きかけをしていくことができる機会を増やしていくことができるよう考えていく必要性を感じた。

